



# 学習者コーパス調査をふまえた日本語学習者の ABAB 型基本オノマトペの使用実態の解明

廉, 沢奇

---

(Citation)

統計数理研究所共同研究リポート, 465:118-134

(Issue Date)

2023-03-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100479392>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100479392>



## 学習者コーパス調査をふまえた

### 日本語学習者の ABAB 型基本オノマトペの使用実態の解明

廉 沢奇(神戸大学院生)

Lzq980628@outlook.com

The use of Onomatopoeia of ABAB-Type in Learners of Japanese:  
Basing on Learner Corpus Study  
LIAN, Zeqi (Graduate School of Kobe University, Graduate Student)

#### 概要

本研究は、日本語会話において頻出する基本 ABAB 型オノマトペ(例:どんどん、そろそろ)109語(廉、2022)について、学習者の使用実態の解明を目指したものである。使用実態の捉え方について、本研究はオノマトペの使用量(使用者数比率・一人当たりのトークン・語彙多様性)と上位語を対象に分析を行う。手法については、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(I-JAS)に収録されている学習者のデータに基づき、習熟度(初級・中級・上級)と母語という2つの視点から、学習者と日本語母語話者間の差異を明らかにし、その原因を解釈した。これより、ABAB 型オノマトペは学習者の習熟度レベルとともに、使用者数の比率・使用量・多様性が上昇するが、いずれも母語話者より少ないことがわかった。この結果は、先行研究で示された結果とは異なり、学習者のオノマトペ使用実態に関する新たな示唆を得ることができた。

#### キーワード

オノマトペ、コーパス調査、日本語学習者

#### 1. はじめに

「オノマトペ」はギリシア語の *onomatopoiia* を語源としており、「音による命名」ないし「音それ自身が名になる」の意を持つ。オノマトペは広く世界の諸語に見られるものであるが、日本語はオノマトペの豊富な言語として知られる。たとえば、小野(2007)のオノマトペ辞典には 4000 を超えるオノマトペが収録されている。

日本語のオノマトペは数が多いだけでなく、語義も多く、さらに用法も多彩である。ここでは、「つるつる」というオノマトペを例に考えてみよう。「つるつる」は、ふつう、物事の表面の滑らかさを含意する語と思われるが、『日本国語大辞典』によれば、「動きがなめらかで、すべるようであるさまを表わす」「物の状態がなめらかなさま、また、すべりやすそうであるさまを表わす」「表面がなめらかで、光沢のあるさまを表わす」という3つの語義があるとされる。加えて、「つるつる」には様々な後接成

分が後続しうる。以下は、日本語日常会話コーパス(CEJC)から筆者が採取した用例である。

- (1) その上からそのつるつるになるための釉薬をかけてもう一回焼いて(陶芸教室の指導)  
(K007\_001)
- (2) うん、それでやっぱりこうゆうふうに、日陰になってるからつるつるして危ないかもね。(溪谷での雑談)(T004\_011)
- (3) だって、つるつるの綺麗な透き通るような肌してね、つるつるだよね。(肌についての雑談)  
(C002\_015)

これらに示されるように、「つるつる」の後接成分は「～になる」「～する」「～の」「～だ」のように多岐にわたり、文中における品詞的特性も様々である。国立国語研究所の「Web 茶まめ」で解析すると、「つるつるになる」、「つるつるの」、「つるつるだ」は形状詞(いわゆる形容動詞)として、「つるつるして」は副詞として解析される。

このように、数・語義の多さや、用法の多様さを特徴とするオノマトペは、日本語学習者から見れば、とくに習得が困難な言語項目の一つである。にもかかわらず、日本語教育においては、オノマトペは単独の指導項目となっていない。そのため、多くの学習者は、オノマトペの使用を回避するか、あるいは、曖昧な判断だけで場当たり的にオノマトペを使用している現状にある。この点を明らかにするため、本研究は、すでに廉(2022)において特定した「基本口語 ABAB 型オノマトペ」109 種が、学習者の発話においてどのように使用されているか、調査することとしたい。

## 2. 先行研究

学習者のオノマトペ使用の実態を観察するには、一定数の学習者を直接観察する方法と、コーパス等を用い、不特定多数の学習者による使用実態を俯瞰的に観察する方法がある。

まず、前者の例として、前田(2009)は、ドイツ人日本語学習者 27 人(10～30 歳代)と日本語母語話者 22 人(20～50 歳代)に、ABAB 型オノマトペ 24 種(がらがら、どんどんなど)を音声で聞かせるとともに、それらを含む文を読ませ、オノマトペの意味を推測させた。また、日本語学習経験のないドイツ人 22 人に同じ音声を聞かせ、意味を推測させた。推測の正確さを測定するため、個々のオノマトペごとに、意味が真逆となる形容詞ペアを示し(「いらいら」であれば、「緊張」と「リラックス」を示す)、当該オノマトペの意味を「-2～+2」の 5 段階で選ばせた。これは、Semantic Differential Method(SD 法)と呼ばれる心理学の実験手法の 1 つである。分析の結果、(a)学習者はオノマトペのおおよその意味は掴めているが正答率は母語話者の 5 割未満にとどまること、(b)学習者の意味推測の正答率は日本語能力や学習経験と相関していない(日本語学習経験のある者とない者で差がない)こと、などが示された。

次に、グエン(2018)は、N2 に合格している中国(20 名)とベトナム(19 名)の日本語を専攻とする大学生を対象に、オノマトペ知識の差異を調査した。調査方法として、21 種の短いアニメーションを用意し、参加者にそれぞれふさわしいオノマトペを記入させた。たとえば、風車が回っているア

アニメーションを見せながら、「風車が風で( )回っている」という文を提示し、穴埋めを行わせる(この場合の正解は「くるくる」となる)。調査の結果、正答率は中国人が 29%、ベトナム人が 55%であった。同じレベルでも、母語が違えば日本語オノマトペ知識に差があることが示されたと言える。一方で、共通性も見られた。たとえば、上述の問題の回答として、中国人・ベトナム人ともに、風車の回転のアニメーションからの連想で「まるまる」や「まわまわ」といった誤答が観察された。日本語オノマトペがわからない場合、知っている言葉から連想し、その言葉の語基部分を反復させ、ABAB型の日本語オノマトペを作り上げるという傾向は、母語の違いを超えて学習者に共通して見られたことになる。

以上で、「一定数の学習者を直接観察する方法」による研究の一部を見た。続いて、後者の「不特定多数の学習者による使用実態を俯瞰的に観察する方法」による研究を見ておこう。張(2018)は、インタビューデータなどを収集した『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(I-JAS)の全てのタスクデータを使い、中国語、韓国語、英語母語話者と日本語母語話者を対象に使用量・多様性・使用語・誤用の面で使用実態を観察した。その結果、使用量・多様性・使用語の3点において、中国語母語話者は韓国語・英語話者より高いものの、日本語母語話者とは大きく異なることがわかった。誤用の点において、中国語母語話者は最も高い割合で誤りを犯していることが分かった。そして、使用量・多様性・使用語・誤用の4点において、異なるレベルの間にはっきりした差異が存在しないことがわかった。これにより、オノマトペの産出については、母語の差はあるものの、習熟度の差は限定的であることが示された。

上記で見たように、オノマトペの学習者による使用実態に関する先行研究は、使用するデータの選定、観察の方法、最終的に得られた結論においてそれぞれ価値ある知見を示している。しかしながら、全体として一定数の学習者を直接観察する研究が多く、学習者コーパスを用いた調査、特に適切な習熟度分類のなされた、母語別日本語学習者のデータに基づく調査は非常に少ない。

そこで本研究は、学習者コーパスの対話タスクを調査資料とし、母語話者の会話コーパスから抽出された語について、学習者の使用実態を調査することで、新しい観点から、学習者のオノマトペ使用の現状を把握することを目指す。

### 3. リサーチデザインと手法

#### 3.1 研究目的と RQ

すでに述べたように、本論文の目的は、学習者コーパスを分析し、異なる習熟度レベルと母語の学習者によるオノマトペ使用量の差を確認し、話し言葉で重要な ABAB 型オノマトペ 109 語(廉、2022)について、学習者の使用実態を解明することである。この目的に沿って、以下の4つの研究設問を設定した。

RQ1 習熟度によってオノマトペ使用量はどうか変化するのか？

RQ2 習熟度によって上位オノマトペはどうか変化するのか？

RQ3 母語によってオノマトペ使用量はどうか異なるのか？

RQ4 母語によって上位オノマトペはどうか異なるのか？

### 3.2 データ

本研究で使ったコーパスは『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(I-JAS)である。I-JASは、学習者1000名、日本語母語話者50名、合計1050名の対面調査で収集した発話と作文、一部の参加者から収集した任意の作文、さらに、日本語能力テスト結果など、全参加者の詳細な背景情報のデータが含まれており、日本語学習者研究の基盤資料とされる大型コーパスである。日本語レベル判定について、I-JASでは、学習者の言語能力を客観的に判断するため、J-CAT (Japanese Computerized Adaptive Test)とSPOT (Simple Performance-Oriented Test)という2つの言語テストを受験させ、そのスコアをコーパスに包含している。収録しているデータについては、ストーリーテリング、ロールプレイ、対話など計12タスクがあり、本研究の調査対象語は会話コーパスから抽出された語なので、I-JASの「対話」データのみ絞って調査する。

本研究で使うI-JASの参加者について、日本国内環境の日本語学習者は要因が海外環境より複雑なので、本研究は日本国内環境を調査せず、全850名の学習者と50名の日本語母語話者を対象とする。

表1 本研究で使うI-JASの参加者の詳細

| 環境             | 母語      | 人数  |
|----------------|---------|-----|
| 海外<br>教室<br>環境 | インドネシア語 | 50  |
|                | スペイン語   | 50  |
|                | タイ語     | 50  |
|                | トルコ語    | 50  |
|                | ドイツ語    | 50  |
|                | ハンガリー語  | 50  |
|                | フランス語   | 50  |
|                | ベトナム語   | 50  |
|                | ロシア語    | 50  |
|                | 英語      | 100 |
|                | 韓国語     | 100 |
|                | 中国語     | 200 |
| 国内             | 日本語     | 50  |
| 合計             |         | 900 |

また、本研究の調査対象語とオノマトペの重要度判定については、廉(2022)が選定した高頻度かつ場面的汎用性が高い「基本口語 ABAB 型オノマトペリスト」の109種を調査対象語とし、同リストに記載される重要度順位に準じて個々の語の重要性を判断する。「基本口語 ABAB 型オノマトペリスト」の一部は以下の通りである。

表 2 基本口語 ABAB 型オノマトペ(上位 20 語)

|        |        |      |        |
|--------|--------|------|--------|
| どんだん   | ぐるぐる   | だんだん | そろそろ   |
| くるくる   | ふわふわ   | ぎりぎり | しゅわしゅわ |
| めちやめちや | しゅっしゅっ | がらがら | そこそこ   |
| ばりばり   | どぼどぼ   | ぼんぼん | ちょろちょろ |
| ぼんぼん   | びしょびしょ | がたがた | ぼろぼろ   |

### 3.3 手法

#### 3.3.1 データの事前処理

前節で紹介したように、I-JAS は学習者の言語能力を客観的に判断するため、J-CAT(聴解・語彙・文法・読解などの言語知識に関する能力を測る)と SPOT(言語運用能力を測る)という 2 つの言語テストを行っている。学習者を習熟度段階に分類する時、I-JAS のデータを使用した先行研究の手法は主に J-CAT の点数に基づいたが、本研究はより多角的に学習者の日本語能力を捉え、J-CAT と SPOT の両方のスコアに基づいて、学習者の習熟度分類を行いたい。

点数の合成手法については、J-CAT の 4 技能別のスコアと SPOT のスコア、合計 5 つのスコア情報がある。J-CAT と SPOT のテストの性質と点数は大きく異なっており、単なる平均するという手法は適していない。主成分分析(principal component analysis)は、相関のある多数の変数から相関のない少数で全体のばらつきを最もよく表す主成分と呼ばれる変数に合成する強力なツールとされている。したがって、本研究は主成分分析を援用し、5 つのスコアを合成し、表 3 のように個々の学生の主成分得点で初・中・上級に分類した。

表 3 学習者の習熟度分類

| 主成分得点  | 人数  | JCAT 平均得点 | SPOT 平均得点 | レベル |
|--------|-----|-----------|-----------|-----|
| < -1   | 139 | 120       | 51        | 初級  |
| -1 ~ 1 | 570 | 202       | 67        | 中級  |
| > 1    | 141 | 291       | 82        | 上級  |

主成分分析の結果、主成分寄与率は 74.4%で分散の大半を説明することができることが確認された。各変数の主成分負荷量については、SPOT が 0.91、J-CAT の語彙が 0.88、聴解が 0.87、文法が 0.85、読解が 0.81 となった。これにより、本研究は、主成分得点に基づき、参加者を初級・中級・上級の 3 つの習熟段階に分類した。

#### 3.3.2 分析の手順

RQ1 については、初・中・上級レベルの学習者と日本語母語話者の 109 語の調査対象語について、オノマトペを一回以上に使用した人の比率(以下は使用者数比率で略称する)、一人当たりのトークンと語彙多様性(Guiraud の R 値)を比較し、レベルの上昇につれて各指標の変化、およ

び学習者と母語話者の違いを確認する。

RQ2 については、初・中・上級レベルの学習者と日本語母語話者の 109 語の調査対象語について、使用したオノマトペを頻度順に並び替え、使用頻度の高い上位語の傾向と重要度を観察し、最も頻度の高い語の後接品詞を分析し、具体的な語の使用パターンについての差異を確認する。

RQ3 については、中級レベルに絞って、12 か国の学習者と日本語母語話者の 109 語の調査対象語について、使用者数比率、一人当たりのトークンと語彙多様性 (Guiraud の R 値) を比較し、異なる母語による各指標の変化、および学習者と母語話者の違いを確認する。

RQ4 については、中級レベルに絞って、参加者が最も多い中国・韓国・英語母語学習者と日本語母語話者の 109 語の調査対象語について、使用したオノマトペを頻度順に並び替え、使用頻度の高い上位語の傾向と重要度を観察し、差異を確認する。

## 4. 結果と考察

### 4.1 RQ1 習熟度によるオノマトペの使用量の変化

使用者数比率・トークン・語彙多様性の 3 観点に即して、学習者の使用実態を調査したところ、以下の結果を得た。

図 1 レベル別のオノマトペ使用量(左:使用者数比率、中:トークン、右:R 値)

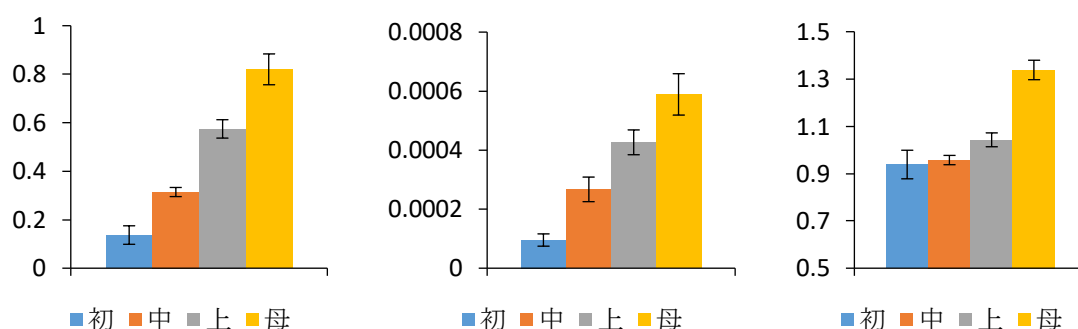


図 1 に示唆されるように、学習者の習熟度が上昇すれば、使用者数比率、トークン、語彙多様性ともに向上する。ただし、上級者であっても母語話者の水準には届かない。しかし、この変化には誤差の可能性も残されているため、使用者数比率、トークン、語彙多様性のそれぞれについて、1 要因 (習熟度) の分散分析を実施したところ、どの場合においても、主効果有意となった (使用者数比率:  $F(3,896) = 41.546, p < .001, \eta_p^2 = .122$ , トークン:  $F(3,896) = 17.153, p < .001, \eta_p^2 = .054$ , R 値:  $F(3,316) = 23.031, p < .001, \eta_p^2 = .186$ )。また、事後検定 (Holm) により、使用者数比率とトークンでは初 < 中 < 上 < 母語話者という関係が確認された。R 値では、初級・中級間の差は出なかったものの、初 ≒ 中 < 上 < 母語話者という関係にあることが確認された。

先行研究の多くは、オノマトペの使用量に関して、学習者 < 母語話者の関係を示唆していたが、本調査により、学習者の習熟度もまた、オノマトペ使用量に大きな影響を及ぼしていることが発見さ

れたと言える。実際、初級者と上級者の間には、大きな違いが観察される。以下は I-JAS から筆者が採取した用例である。いずれにおいても、「夏目友人帳」という日本アニメについてやりとりが交わされている。

#### 初級学習者 CCH02-I

|     |                                                                                   |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 調査者 | どんなアニメを見てたんですか？                                                                   |
| 学習者 | 一番好きなアニメは『夏目友人帳』です                                                                |
| 調査者 | 『夏目友人じゃ(帳)』？                                                                      |
| 学習者 | はい                                                                                |
| 調査者 | 私知らないんだけど、どんな話なんですか                                                               |
| 学習者 | 神とか、ある男は、あー自分の、自分の、おじ、おじいさんの友人帳、友人帳あーある、あるので、その時、いろいろな神とかあー化け物、化け物とか、あーその関係する物語です |
| 調査者 | あそうなんですね、あのストーリーで、どうゆうところが面白いんですか？                                                |
| 学習者 | このア、アニメは、ちょっと暖かい、いろいろな言葉は暖かいとゆう感じがあります                                            |
| 調査者 | へえ見たら、ちょっと暖かい気持ちになりますか？                                                           |
| 学習者 | はいはいはい                                                                            |
| 調査者 | あそうなんですか、へえこの夏目君ていうのは高校生なんですか？                                                    |
| 学習者 | はい                                                                                |
| 調査者 | ふーん、夏目君はどんな、あの人なんですか？                                                             |
| 学習者 | あー、親切でやさしい、あー一番特徴はやさしい人です                                                         |
| 調査者 | あーやさしい人なんですね。わかりました。                                                              |

#### 上級学習者 CCT44-I

|     |                                                                                 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------|
| 調査者 | ああ最近あので一番好きなのは何(なん)ですか？                                                         |
| 学習者 | えっと、『夏目友人帳』とゆう漫画です                                                              |
| 調査者 | ほーまったくわからないんですがどうゆうの                                                            |
| 調査者 | どうゆう話か説明してもらっていいですか                                                             |
| 学習者 | そうですね、えと夏目とゆう高校の少年が妖怪が、見られます、しかし周りの人は見られません                                     |
| 調査者 | うんうん                                                                            |
| 学習者 | ずっと大人に信じられなくて                                                                   |
| 調査者 | うん                                                                              |
| 学習者 | えと、 <u>どんどんネガティブになっていく</u> 物語でしたが、ある日は、猫のような妖怪に出会って、いろいろなことをやって、今もまだ終わっていないんですが |
| 調査者 | あ、終わってない                                                                        |

|     |                                                              |
|-----|--------------------------------------------------------------|
| 学習者 | はい、いろいろな人や妖怪たちに助けて、友情を強調する物語です。                              |
| 調査者 | ふーんなるほど、わかりました、それまだ終わってないんですけど、これからそれはどうなると思いますか             |
| 学習者 | これからはたぶん、両親と少年のおばあさんも妖怪が見られるような噂がありましたが、両親もおばあさんも、亡くなっていますので |
| 調査者 | うん                                                           |
| 学習者 | その部分のことが <u>だんだん明らかに</u> なっていくと思います。                         |

初級学習者はアニメの登場人物を紹介することはできているものの、話の展開や変化については説明ができていない。一方、上級学習者は「どんどんネガティブになっていく」、「だんだん明らかになっていく」という 2 つのオノマトペを使用することで、アニメの内容の変化や展開を説明することができている。このことは、オノマトペの使用の有無が、日本語の産出の質に直接的に影響していることを示唆するだろう。

#### 4.2 RQ2 習熟度による上位オノマトペの変化

異なるレベルの学習者が多用しているオノマトペ(上位 8 語。ただし、同頻度ものがあればそれらも含める)について、以下の結果を得た。

表 4 異なるレベルの学習者の上位語

| 初級     | 頻度 | 重要度順位 | 中級        | 頻度  | 重要度順位 |
|--------|----|-------|-----------|-----|-------|
| だんだん   | 7  | 3     | だんだん      | 166 | 3     |
| ぐるぐる   | 6  | 2     | どんどん      | 63  | 1     |
| そろそろ   | 5  | 4     | そろそろ      | 13  | 4     |
| ぐちゃぐちゃ | 1  | 94    | どきどき      | 13  | 22    |
| くるくる   | 1  | 5     | ごろごろ      | 10  | 33    |
| にこにこ   | 1  | 37    | にこにこ      | 8   | 37    |
| ばらばら   | 1  | 24    | もちもち      | 8   | 41    |
| ふわふわ   | 1  | 6     | いらいら・ぎりぎり | 7   | 26・7  |
| 上級     | 頻度 | 重要度順位 | 母語話者      | 頻度  | 重要度順位 |
| だんだん   | 66 | 3     | だんだん      | 28  | 3     |
| どんどん   | 30 | 1     | どんどん      | 21  | 1     |
| そろそろ   | 11 | 4     | そろそろ      | 12  | 4     |
| ちょこちょこ | 10 | 29    | ぎりぎり      | 6   | 7     |
| そこそこ   | 7  | 12    | そこそこ      | 6   | 12    |
| ごろごろ   | 6  | 33    | ちょこちょこ    | 5   | 29    |

|           |   |       |        |   |    |
|-----------|---|-------|--------|---|----|
| もちもち      | 5 | 41    | ばらばら   | 5 | 24 |
| いらいら・ばらばら | 4 | 26・24 | ちょろちょろ | 4 | 16 |

異なるレベルの学習者の上位語には、共通要素と異なる要素がある。共通要素は、(1)「だんだん」の頻度が1位であることと、(2)「そろそろ」が上位に入っていることの2つである。なお、「どんどん」については、初級者を除くすべての群で2位になっている。『新明解国語辞典』(7版)によれば、「だんだん」は「事態がその方向に向かって、少しずつではあるが確実に進んでいく様子」、「そろそろ」は「速度をゆるめて少しずつ(慎重に)進んでいく(事を進める)様子」、「どんどん」は「次から次へと積極的に物事を行なう様子」を表す語とされる。これらを踏まえると、ニュアンスの違いはあるものの、連続的な状態変化を表すオノマトペがすべての話者によって多用されていることがわかる。

次に、学習者の習熟度の上昇に伴う変化についてまとめておきたい。明確に認められる変化は2点ある。1点目は、高頻度に使用するオノマトペが母語話者に接近していくということである。実際、母語話者が多用する上位8語との一致語数は、初級(3語)→中級(4語)→上級(6語)の順で、段階的に上昇している。2点目は、使用できるオノマトペの意味タイプが、初級では状態(「ぐるぐる」「ふわふわ」など)だけに限られているのに対し、中級以上では、心理を表す語彙も使用できるようになるということである。心理を表す語の数は、初級(0語)→中級(2語:「ドキドキ」「いらいら」)→上級(1語:「いらいら」)のように変化する。学習者によるオノマトペの使用範囲が拡張していることがわかる。

以上で、異なるレベルの学習者が多用しているオノマトペを概観した。しかし、これだけでは、「何を使うか」は明らかにできたものの、「どう使うか」の点は明らかにされていない。そこで、サンプル語として、すべてのグループが最多使用する「だんだん」を取り上げ、その後接要素を品詞と個別語の2つの観点から見ていくことにしたい。結果は以下のとおりである。

図2 レベルとともに変化する「だんだん」に後接する品詞の割合

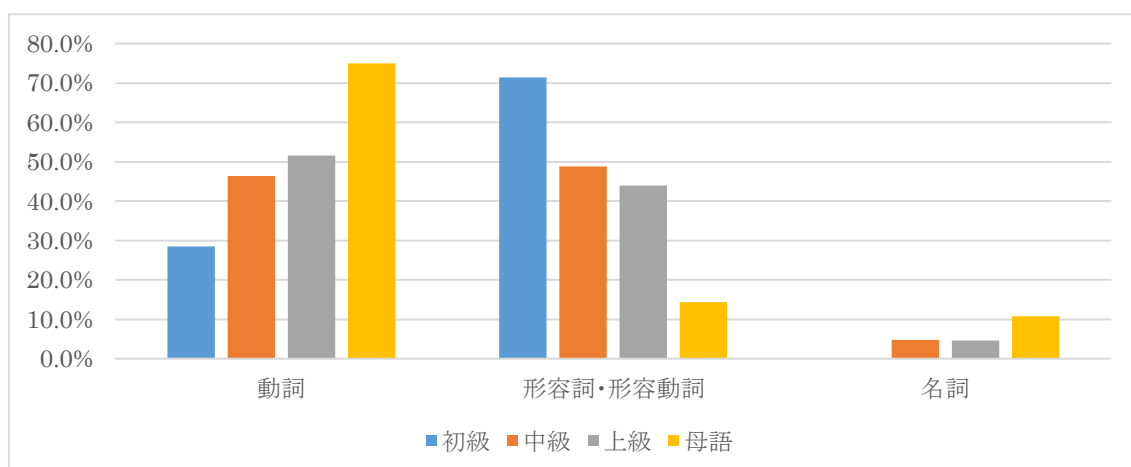


図2で示すように、「だんだん」の後接品詞の点で、習熟度の差による変化があることが示唆された。具体的には、動詞の増加と、形容詞・形容動詞の減少という2点である。これにより、学習者の使用パターンは次第に母語話者のパターンに接近していることがわかる。

次に、個別語の調査を行う。以下の表中、誤用または不適切な用法と思われるものには、「？」のマークを付与している。

表5 初級・中級・上級・母語話者の「だんだん」に後接する個別語

| 初級      | 頻度 | 中級     | 頻度 | 上級         | 頻度 | 母語話者     | 頻度 |
|---------|----|--------|----|------------|----|----------|----|
| おいしくなる  | 1  | 好きになる  | 17 | 好きになる      | 6  | わかってくる   | 3  |
| ？勉強し始める | 1  | 慣れる    | 9  | 少なくなる      | 3  | 減る       | 2  |
| 好きになる   | 1  | 大きくなる  | 9  | ？年を取った人になる | 2  | 思い出してくる  | 1  |
| よくなる    | 1  | 良くなる   | 6  | 明るくなる      | 2  | 走れるようになる | 1  |
| わかっていく  | 1  | ？興味がある | 5  | ？感動する      | 2  | 変わっていく   | 1  |
|         |    | 増える    | 5  | 慣れる        | 2  | 惹かれあっていく | 1  |
|         |    | 慣れてくる  | 4  | 難しくなる      | 2  | 成長する     | 1  |
|         |    | なくなる   | 4  | なくなる       | 2  | 積み重ねっていく | 1  |
|         |    | 明るくなる  | 3  | 年を取る       | 2  | 感情移入してくる | 1  |
|         |    | ？来る    | 3  | 上手になる      | 2  | 入ってくる    | 1  |

表2で示すように、「だんだん」の後接語については、習熟度の差よりも、学習者と母語話者の断絶が明らかになった。まず、誤用・不適切用例の数は、初級(1)→中級(2)→上級(2)となり、必ずしも減少が見られない。次に、後続語の語末での「てくる」形と「ていく」形の使用頻度について言うと、初級(1語:「わかっていく」)→中級(1語:「慣れてくる」)→上級(0)の間では、ほとんど増加の傾向がみられず、母語話者(7語:「わかってくる」「変わっていく」など)との差は著しい。『現代日本語文法 2』によれば、「てくる」は状態の出現、あるいは特定の時点までの変化の進展や長期的継続を表し、「ていく」は特定の時点以降の変化の進展や長期的継続を表すという。つまり、母語話者は「だんだん」を使う時、無意識のうちにこれが変化を表す語であることを認識し、動詞の末尾に同じく変化を表す補助動詞を選択する可能性が示唆される。一方、学習者にはそうした言語直感が無いように思える。すでに見たように、品詞のレベルでは次第に母語話者に近づいていくと言えるものの、具体的に使用する語の中身については、なお、差が大きいと言わざるを得ない。

以上、RQ2では、異なるレベルの学習者が多用しているオノマトペを観察した。その結果、学習者の習熟度の上昇に伴い、品詞レベルでは母語話者への接近が見られるものの、具体的な語選択のレベルでは、はっきりした習熟度の差や母語話者への近接が確認できなかった。

### 4.3 RQ3 母語によるオノマトペ使用量の差異

中級に絞り、異なる母語の学習者の使用者数比率・トークン・語彙多様性の3観点を調査したところ、以下の結果を得た。

図3 母語別のオノマトペ使用者数比率

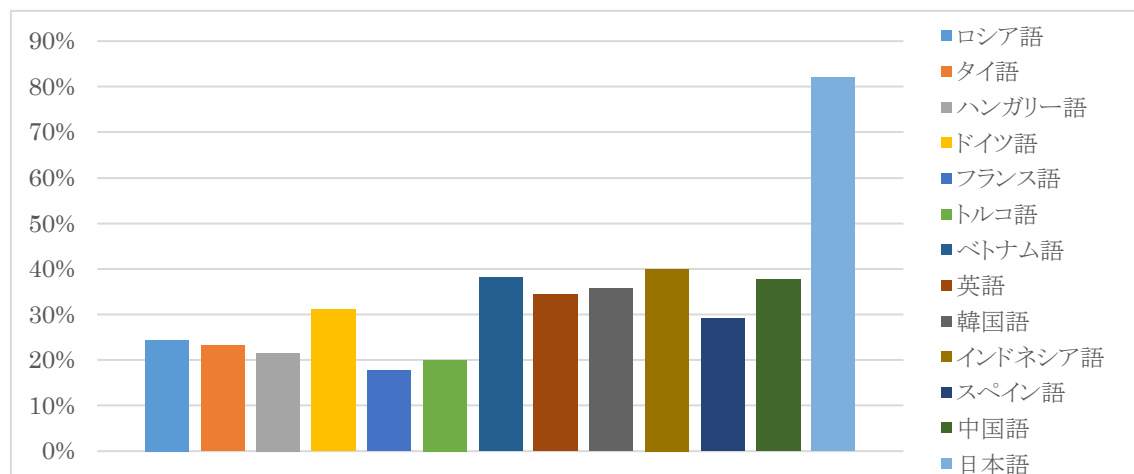


図4 母語別のオノマトペ使用量(トークン)

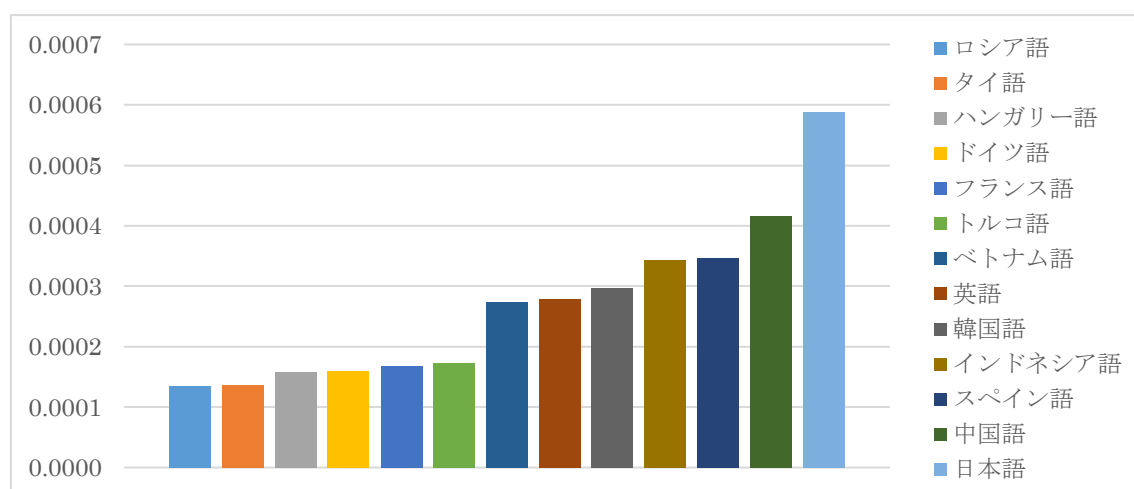


図5 母語別のオノマトペ使用の多様性

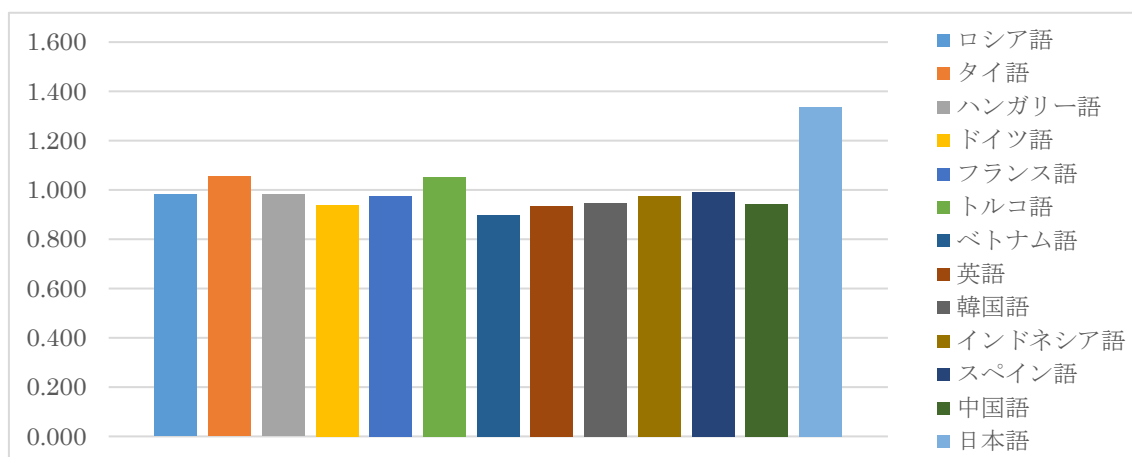


図 3-5 は、母語が違えば、使用者数比率、トークン、語彙多様性ともに異なる可能性を示している。ただし、誤差の可能性も残されているため、3 観点のそれぞれについて、1 要因(母語)の分散分析を実施したところ、どの場合においても、主効果有意となった(使用者数比率:  $F(12,507) = 5.891, p < .001, \eta_p^2 = .104$ 、トークン:  $F(12,607) = 3.305, p < .001, \eta_p^2 = .061$ 、R 値:  $F(12,207) = 6.255, p < .001, \eta_p^2 = .266$ )。

次に、事後検定(Holm)で、母語話者と学習者各群の差を見たところ、3 観点いずれの場合も、すべての学習者において、値が、母語話者よりも有意に低いことが確認された。一方で、隣接する学習者群間の差については、使用者数比率、語彙多様性とも、有意な差は認められなかった。また、トークンについては、1 か所で差が出ており(トルコ語とベトナム語の間)、全体として、アジア圏 > 欧州圏、という関係性が示唆された。

以上の分析により、(1)学習者のオノマトペ使用は、使用者数比率、トークン、多様性のいずれにおいても、母語話者より有意に制約されていること、(2)一部の例外を除けば、学習者の母語の差は必ずしも明確でないこと、(3)トークンに限って、アジア圏 > 欧州圏という関係が示唆されること、の 3 点が確認された。

もっとも、(3)について、積極的な解釈をすることには慎重でなければならない。というのも、アジア圏学習者がオノマトペを多用するといっても、実際には、同じ語を繰り返しているだけ、という可能性が存在するからである。以下は、「日本語の勉強」という話題についての中国人学習者と韓国人学習者のやりとり例の一部である。

#### 中国人学習者 CCH15-I

調査者 小さい時ってどんな子供でした？

協力者 小さい時どんな子供、小さい時はーとてもー、んー、ち、いらいらしやすい

調査者 ほんと、えーどうしてー？

協力者 あ、私の姉より勉強の成績は、彼女より下手でした、いらいらしやすい子供なので

調査者 あーそうなんだ、どうして自分がいらいらしやすいかわかりますか？

協力者 うーん、生まれからー

調査者 え生まれ

協力者 生まれたか、生まれたから、あーの、そんな性格なので

調査者 へー、じゃもういらいらすると成績が良くない？

協力者 はい、あーいらいらとの関係が、あーと思います

調査者 そうですかでも、あのこの大学に入れて、それもあの成績でもう、大学院に行けるんだから

協力者 んー、はい

調査者 全然違うんじゃない？

協力者 はい、はい

調査者 むしろ、うん

調査者 あのじゃあ、日本語を、勉強し始めるまでは、やっぱり、いつもいらいらしてたんですか？

協力者 はい、今、あー今まで四年、四年生だから、あの一こ、そんないらいらの感じは、え、一年生より、少ない、です、はいはい

調査者 まあそうですねーだんだんお、あの、ま年齢が高くなると落ち着いてくるからね

協力者 はいいつも穏やかな人になりたいです

調査者 あーあー、おじゃあちじゃ一番、あ、危ないというか、一番いらいらしてたのはいつ頃いつごろなんですか？

協力者 一年生の時の成績は、うー、この今まで三年と比べて一番下手です

調査者 あー大学一年の時ね

協力者 はい、はい私の成績は、だんだん良くなった、はい

調査者 んー落ち着いてくると良くなるのね

協力者 はい、私はそう思います

韓国人学習者 KKD05-I

協力者 試験ーは、先週で終わりましたけど。

調査者 あそうですか、うんうん。

協力者 どんどん発表とか、ちょっとあって。

調査者 あー、次の、ね、いろんな、やらなきゃいけないことが出てくるんですね、そっかー、はい、えっとー、KDさんは、えー日本語を、は、習い初めてもう長いですか？

協力者 んー高校の時、ちょっと、学び始めましたね。

調査者 そのきっかけとかは何ですか、何で日本語を勉強しようと思ったんですか？

協力者 やっぱりなんか、高校の時第二外国語の勉強がありますけど、その時、なんか中国語、とか、フランス語よりは日本語のほうがもっと、最初はちょっと簡単に見えたし、やっぱりちょっと、日本に一興味があって、うん、それをきっかけでちょっと、勉強…

調査者 しようと思ったんですね、へー、日本のどんなところに興味が、あったんですか？  
協力者 んー、ちょっと映画や、小説、ですね、そしてその後は、大学に入って、その後ちょっと、好きな一アイドルとか俳優ができて、どんどんどんどん、ちょっと勉強しようと思いましたね。

ここでアジア圏である中国人学習者と韓国人学習者の用例を見てみると、一見オノマトペを多く使用したが、実際、中国人学習者の場合、「いらいら」を4回と「だんだん」を1回使用した。韓国人学習者の場合、「どんどん」を3回使用した。オノマトペを繰り返して使用する場合、トークンは上がるが、R値は下がることになる。図5が示しているように、全体的に語彙多様性R値については有意差がないものの、あえて見るとアジア圏の学習者は全体的に欧州圏よりやや少ないことがわかる。したがって、アジア圏の学習者の一部はオノマトペを繰り返して使用する傾向があることが推測される。このことは、異なる母語の学習者はほぼ同じ水準のオノマトペ知識を持っており、繰り返してオノマトペを使用する習慣の有無のみについて差があることを示唆するだろう。

以上、RQ3では、中級レベルの異なる母語の学習者のオノマトペ使用量を観察した。その結果、同じレベルの学習者は、使用者率と語彙多様性には差がなく、オノマトペの使用量には差があるものの、使用量の多い学習者が繰り返してオノマトペを使用する傾向が見られ、内容的に他の学習者と差がないことが確認された。

#### 4.4 RQ4 母語による上位オノマトペの差異

中級に絞り、韓国語・英語・中国語を母語とする学習者が多用しているオノマトペについて、以下の結果を得た。

表6 異なる母語の学習者の上位語

| 韓国語  | 頻度 | 重要度順位 | 英語   | 頻度 | 重要度順位 |
|------|----|-------|------|----|-------|
| どんどん | 13 | 1     | だんだん | 24 | 3     |
| だんだん | 9  | 3     | どんどん | 3  | 1     |
| どきどき | 3  | 22    | どきどき | 3  | 22    |
| ごろごろ | 2  | 33    | ばらばら | 3  | 24    |
| ぐるぐる | 1  | 2     | ぐるぐる | 2  | 2     |
| 中国語  | 頻度 | 重要度順位 | 母語   | 頻度 | 重要度順位 |
| だんだん | 64 | 3     | だんだん | 28 | 3     |
| どんどん | 15 | 1     | どんどん | 21 | 1     |
| そろそろ | 8  | 4     | そろそろ | 12 | 4     |
| もちもち | 8  | 41    | ぎりぎり | 6  | 7     |
| いらいら | 6  | 26    | そこそこ | 6  | 12    |

異なる母語の中級学習者の上位語には、共通要素と異なる要素がある。共通要素については、「だんだん」と「どんどん」がすべての群において上位 2 位であることである。RQ2 で述べたように、この 2 つの語はニュアンスの違いがあるものの、ともに連続的な状態変化を表す。こうしたオノマトペがすべての話者によって多用されていることがわかる。

次に、異なる母語による差異についてまとめておきたい。明確に認められる差異は 3 点ある。1 点目は、異なる母語の学習者の上位語は異なることである。日本語母語話者が多用する上位 5 語との一致語数は、韓国語(2 語)＝英語(2 語)＜中国語(3 語)の順で、差はわずかであるが、中国人学習者の使用傾向は母語話者にやや近いと言えるかもしれない。一方、韓国語話者と英語話者が多用する上位 5 語中 4 語が重なっており、一致度が高い。この差異については、今後教材の影響なども調査していきたい。2 点目は、重要度の順位が異なるである。上位 5 語の重要度の平均値を比較すると、日本語(5.4)＜英語(10.4)＜韓国語(12.2)＜中国語(15)となる。つまり、現在の日本語教育では、高頻度で場面的汎用性が高いオノマトペを十分に指導していない。このため、学習者が重要な語ではなく、むしろ重要度の低い語を使ってしまう状態が生じていると言えるだろう。3 点目は、母語が異なれば、とくに心理的オノマトペの使い方が異なることである。英語母語話者と韓国語母語話者は「どきどき」を多用するのに対し、中国語母語話者は「いらいら」を多用する。『新明解国語辞典』(7 版)によれば、「どきどき」は「激しい運動の後、極度の興奮や緊張によって心臓の鼓動が激しくなる様子」、「いらいら」は「事が思い通りに運ばないために、神経が高ぶって、冷静さを失っている状態」を表す語とされる。つまり、「いらいら」はネガティブな意味を表すのに対し、「どきどき」は中性的で、ポジティブとネガティブな意味両方表すことができる。以下は英語母語話者と韓国語母語話者の「どきどき」の用例である。

#### 英語母語話者 EAU37-I

協力者 何も見えないで、ぶつかってしましまして。あのー今その運転した車も、なくー、なくー、なくなりました。その時、たぶん初めてぶつかったから、どきどきして緊張して。どうするかわかなくて。

#### 韓国語母語話者 KKD26-I

協力者 インタビューは、合格する後でインタビューがあります。  
調査者 わかりました。じゃあ試験の成績で〈はい〉ああわかりました  
協力者 それでうん  
調査者 へえーじゃちょっとあのどきどきして待っていますね  
協力者 ああ、はい、どきどき

学習者の「どきどき」の用例を見ると、本来の意味が中性的であるが、学習者は主に「どきどき」を「緊張」の意味として使い、ネガティブな感情を表していることがわかった。つまり、RQ2 で検証された、習熟度の上昇に伴うオノマトペの心理描写への拡張傾向については、具体的な意味やオノマ

トペの選択が異なるものの、学習者は主にネガティブな感情を表す時にオノマトペを使用することがわかった。

以上、RQ4 では、異なる母語の学習者が多用しているオノマトペを観察した。その結果、学習者の母語によって、上位オノマトペが異なることが発見された。これは、各国の日本語教育は一定の数のオノマトペを導入したが、いずれも重要語の特定はまだなされていない可能性が示唆された。また、中級の心理描写への拡張傾向は中国語母語話者、英語母語話者と韓国語母語話者ともに見られ、異なる母語の学習者は同じくネガティブな傾向を選択することが確認された。

## 5. まとめ

本研究は『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(I-JAS)を分析し、学習者の習熟度レベルと母語による ABAB 型オノマトペ使用量の差を調査し、その原因を考察した。これにより、オノマトペの使用は学習者と母語話者間にも、学習者間にも差があることが示唆された。以下では各 RQ で得られた知見をまとめる。

RQ1(習熟度によるオノマトペの使用量の変化)では、学習者のレベルによるオノマトペ使用量の差を調査した。その結果、学習者の習熟度が上昇すると、使用者数比率・使用量・多様性ともに上昇するが、いずれも母語話者には及ばないことがわかった。語彙多様性の発達は他より遅れ、中級以降で上昇するが、上級学習者でも少数のオノマトペを繰り返して使用する傾向が見られた。

RQ2(習熟度による上位オノマトペの変化)では、各レベルの学習者が多用するオノマトペを比較した。その結果、習熟度に関係なく学習者が最も使用する「だんだん」の場合、後接語の品詞分布(動詞、形容詞・形容動詞、名詞)は母語話者に近づくことがわかった。しかし、具体的な語選択のレベルでは、母語話者とは大きく異なっており、はっきりした習熟度の差や母語話者への近接が確認できなかった。

RQ3(母語によるオノマトペ使用量の差異)では、中級学習者に限定して、異なる母語の学習者によるオノマトペ使用量の差を調査した。その結果、母語が違っても、使用者率と語彙多様性がほぼ一致していることがわかった。使用量についてはおよそ欧州圏<アジア圏の傾向が見られたものの、アジア圏の一部の使用量の多い学習者が繰り返してオノマトペを使用する傾向が見られ、結果的に、トークンは上昇するが、語彙多様性については学習者間の有意差がないことが確認された。このことは、異なる母語の学習者はほぼ同じ水準のオノマトペ知識を持っており、繰り返してオノマトペを使用する習慣の有無のみについて差があることを示唆するだろう。

RQ4(母語による上位オノマトペの差異)では、中級の韓国語・英語・中国語と日本語母語話者が多用するオノマトペを比較した。その結果、学習者の母語によって、上位オノマトペが異なることが発見された。平均重要度から見ると、学習者は一部の頻度と場面的汎用性が低いオノマトペを使用していることがわかった。また、中級の心理描写への拡張傾向はどの母語でも見られ、具体的な意味やオノマトペの選択が異なるものの、学習者は主にネガティブな感情を表す時にオノマトペを使用することが確認された。

以上で見たように、本研究は一定の成果を挙げたが、もちろん、課題も多い。もっとも重要な問

題は、ベースにしたコーパスデータ量が制約されていたことと、差の原因の考察にまで十分踏み込めなかったことである。前者については、今後、さらに多くの会話データを収集し、分析を行いたい。後者については、差の原因の一つの候補と考えられる教材に注目し、各地域で使用されている日本語教科書の内容を分析していきたい。

## 引用文献

- 小野正弘(2007) (編)『擬音語・擬態語 4500: 日本語オノマトペ辞典』小学館.
- 北原保雄(2003) (著)『日本国語大辞典 第二版』小学館.
- グエン, ティ タイン トゥイ(2018)「中国人日本語学習者による日本語オノマトペの使用実態と産出傾向: ベトナム人日本語学習者との比較」『一橋日本語教育研究』6, 41-50.
- 張晶鑫(2020)「現代日本語におけるオノマトペの用法解明と中国人日本語学習者のためのオノマトペ指導に対する提言 ―コーパス言語学の教育的応用の可能性をめぐって―」神戸大学国際文化学研究科博士論文.
- 日本語記述文法研究会(2009)『現代日本語文法 2』くろしお出版.
- 前田未央(2009)「日本語学習者による擬音語・擬態語の意味推測に影響する要因」『ニダバ』38, 128-137.
- 山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井島正博・笹原宏之(2011) (編)『新明解国語辞典 第七版』三省堂.
- 廉沢奇(2022)「話し言葉 10 種の言語データのコーパス調査をふまえた日本語学習者のための ABAB 型基本口語オノマトペの選定」『統計数理研究所共同研究レポート』456, 117-129.